

# 三吉陵墓参考地外構柵整備工事に伴う立会調査について

## はじめに

三吉陵墓参考地（遺跡名称：新木山古墳）は、奈良県北葛城郡広陵町大字三吉に所在する。本参考地は、馬見古墳群の中ほどに位置し、西には三吉石塚古墳が所在する。標記の外構柵整備工事に伴う掘削は、流土および古墳築造以降の盛土内掘削であった。ここでは、外構柵設置箇所よりも掘削面積が広く、掘削深度が深い門扉設置箇所、A・B・C地点、3箇所の立会調査について報告をおこなう。

陵墓課職員による立会調査は、平成24年1月16日から19日までおこなったが、それ以外の工事期間中は、畝傍陵墓監区事務所職員が随時立ち会った。

## A 地点

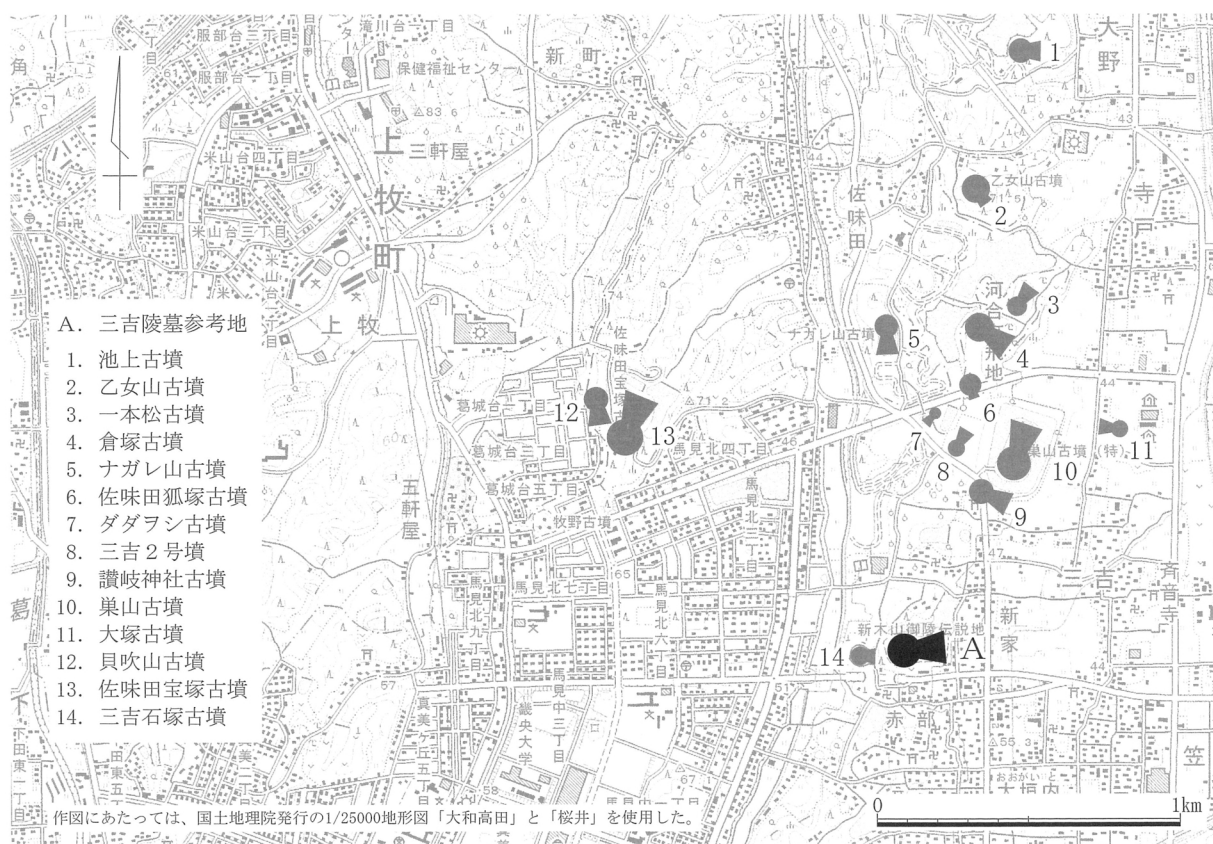
A 地点における基本層序は、表土（Ⅰ）、流土（Ⅱ）、地山（Ⅲ）の順である。

Ⅰ層 表土。色調は暗褐色で、細粒砂から成る。

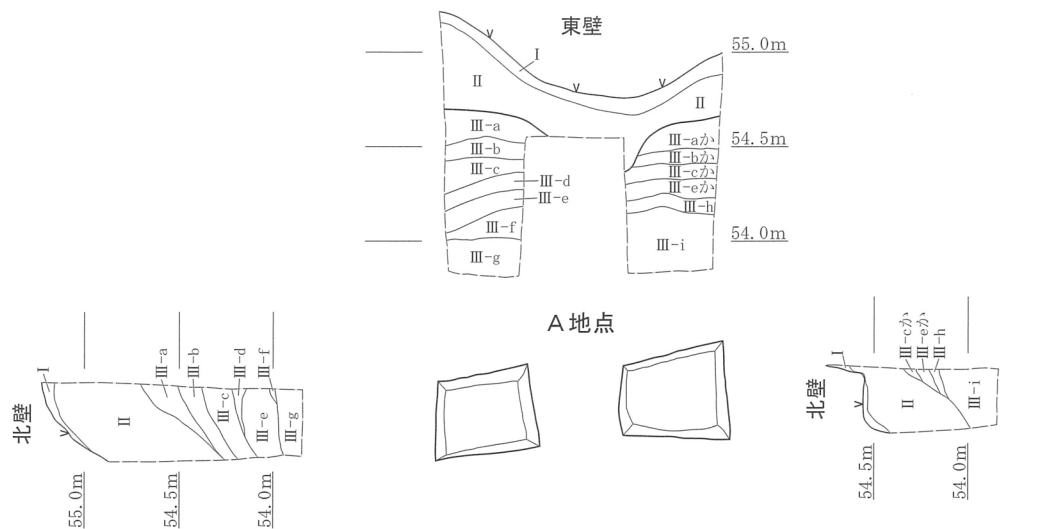
Ⅱ層 流土。色調は黄褐色から褐色で、細粒砂から成る。

Ⅲ層 地山。色調と粒径により、a から i まで細別できる。a の色調は灰黄色で、粗砂から成る。b の色調は浅灰黄色で、粗砂から成る。c の色調は灰白色で、粗砂から成る。d の色調は暗灰黄色で、粗砂から成る。e の色調は灰黄色で、粗砂から成る。f の色調は灰褐色から褐色で、粗砂から成る。g の色調は暗灰黄色で、粗砂から成る。h の色調は灰白色で、粗砂から成る。i の色調は灰黄色で、シルトから成る。

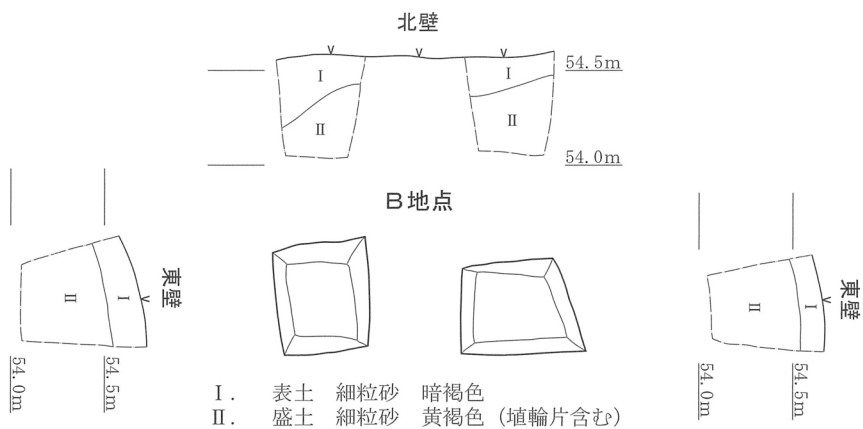
A 地点では、地山上に古墳築造以降の流土が残るのみで、遺構は検出されなかった。現状の地山は標高約54.6 mで、周濠のある西側に下降傾斜している。遺物は出土していない。



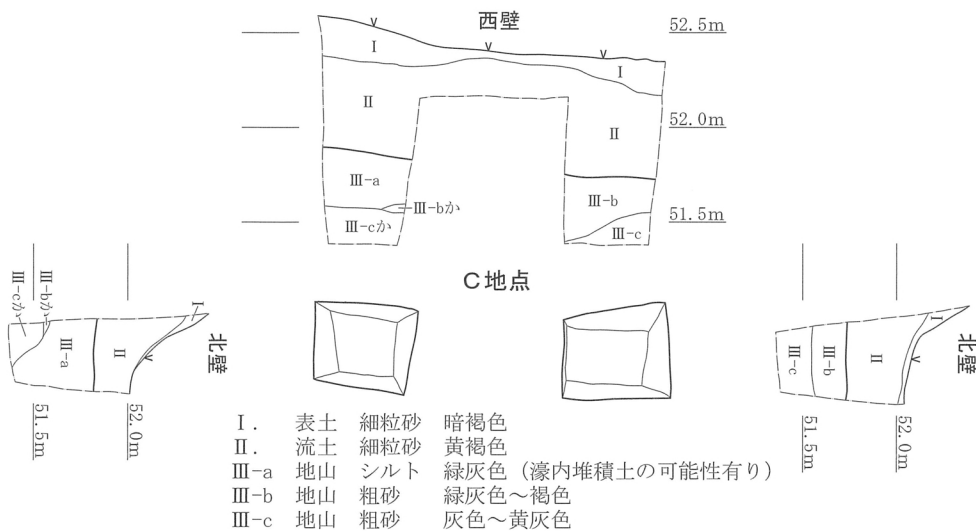
第36図 三吉陵墓参考地 位置図 (1/25,000)



- |       |    |     |        |       |    |     |        |
|-------|----|-----|--------|-------|----|-----|--------|
| I.    | 表土 | 細粒砂 | 暗褐色    | III-e | 地山 | 粗砂  | 灰黄色    |
| II.   | 流土 | 細粒砂 | 黄褐色~褐色 | III-f | 地山 | 粗砂  | 灰褐色~褐色 |
| III-a | 地山 | 粗砂  | 灰黄色    | III-g | 地山 | 粗砂  | 暗灰黄色   |
| III-b | 地山 | 粗砂  | 浅灰黄色   | III-h | 地山 | 粗砂  | 灰白色    |
| III-c | 地山 | 粗砂  | 灰白色    | III-i | 地山 | シルト | 灰黄色    |
| III-d | 地山 | 粗砂  | 暗灰黄色   |       |    |     |        |



- |     |    |     |             |
|-----|----|-----|-------------|
| I.  | 表土 | 細粒砂 | 暗褐色         |
| II. | 盛土 | 細粒砂 | 黄褐色 (埴輪片含む) |



- |       |    |     |                   |
|-------|----|-----|-------------------|
| I.    | 表土 | 細粒砂 | 暗褐色               |
| II.   | 流土 | 細粒砂 | 黄褐色               |
| III-a | 地山 | シルト | 緑灰色 (濠内堆積土の可能性有り) |
| III-b | 地山 | 粗砂  | 緑灰色~褐色            |
| III-c | 地山 | 粗砂  | 灰色~黄灰色            |

第37図 三吉陵墓参考地 掘削立会箇所平面図・断面図 (1/40)

## B 地点

B 地点における基本層序は、表土（Ⅰ）、盛土（Ⅱ）の順である。

Ⅰ層 表土。色調は暗褐色で、細粒砂から成る。

Ⅱ層 盛土。埴輪片を含む盛土である。色調は黄褐色で、細粒砂から成る。

B 地点では、工事掘削範囲に古墳築造以降の盛土が見られるのみで、遺構は検出されなかった。遺物はⅡ層より埴輪片が出土しているが、図化に耐えない小片である。

## C 地点

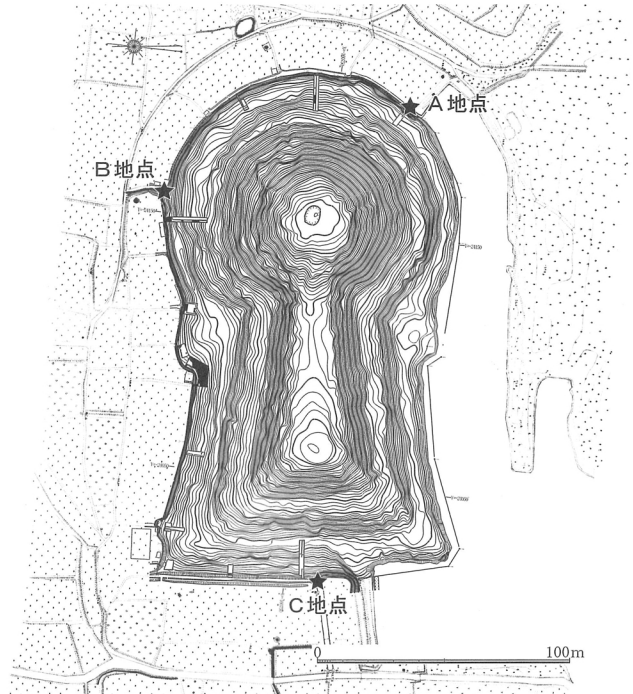
C 地点における基本層序は、表土（Ⅰ）、流土（Ⅱ）、地山（Ⅲ）の順である。

Ⅰ層 表土。色調は黒褐色から暗褐色で、細粒砂から成る。

Ⅱ層 流土。色調は黄褐色で、細粒砂から成る。

Ⅲ層 地山。色調と粒径により、a から c まで細別できる。a の色調は緑灰色で、シルトから成る。b の色調は緑灰色から褐色で、粗砂から成る。c の色調は灰色から黄灰色で、粗砂から成る。

C 地点では、地山上に古墳築造以降の流土が残るのみで、遺構は検出されなかった。現状の地山は標高約 51.9 m で、緩やかに北へ下降傾斜するが、ほぼ平坦である。遺物は出土していない。

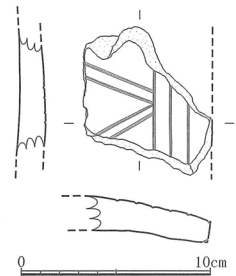


第38図 三吉陵墓参考地 掘削立会箇所位置図 (1/3,000)

## 採集遺物

陵墓課職員による立会調査時には、出土遺物は B 地点での埴輪小片 1 片のみであったが、畝傍陵墓監区事務所職員による立会時に採集したものの中に、事前調査<sup>(1)</sup>では出土していない盾形埴輪の破片がみられたため、ここで報告する。

三吉陵墓参考地の南西側、後円部から造出部の工事区間で採集した盾面の破片である。盾面の一辺が部分的に残る。表側に線刻による 3 条の凹線と鋸歯文が見られる。鋸歯文は、図化した部分も摩滅等によって薄く消えかかっており、本来は鋸歯文の凹線がより並んでいた可能性がある。裏側は摩滅等のため、調整が不明である。



第39図 三吉陵墓参考地 出土品実測図 (1/4)

## まとめ

今回の調査では、全地点で葺石などの遺構が確認されず、工事掘削範囲は古墳築造以降の流土と盛土内であったため、整備工事は予定どおり施工した。また、出土位置の詳細は不明であるが、事前調査では未確認であった盾形埴輪片を採集した。

(横田真吾)

## 註

(1) 陵墓調査室「三吉陵墓参考地整備工事予定区域の事前調査」『書陵部紀要』第 63 号、宮内庁書陵部、2012 年。



1 A地点 北堀形（西から）



2 A地点 南堀形（西から）



3 B地点 西堀形（南から）



4 B地点 東堀形（南から）



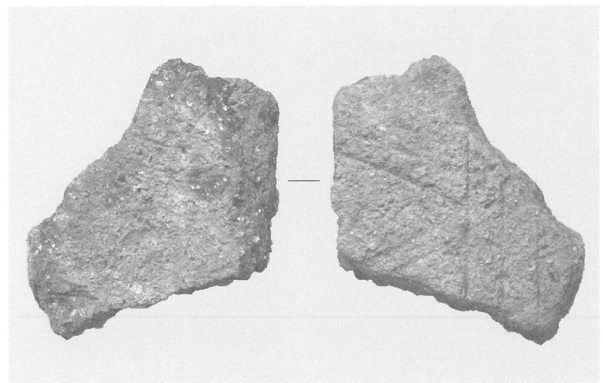
5 C地点 南堀形（東から）



6 C地点 北堀形（東から）



7 C地点（南東から）



8 採集遺物 盾形埴輪